

# Think Japan Session Report

## AIの進化・ビッグデータ活用が もたらす近未来予想



株式会社AIT  
酒井修 氏



国立大学法人 電気通信大学大学院  
坂本真樹 氏

### お客様第一主義を 掲げるA I T

創業以来27年間、常に”お客様にお選びいただけるベストパートナーを目指して”きたAITは、延べ取引先1,500社超、年間プロジェクト数800件超を誇り、2017年にはIBMパートナーへのグローバル表彰制度「IBM Beacon Award」において、IBM クラウド分野で世界No1に選ばれたIBMビジネス・パートナーである。取引先企業の業種・業界も、金融・証券・保険・流通・製造・医療・官公庁・通信・メディア・文教と幅広く、お客様第一主義を掲げるAITと顧客との良好な取引関係を垣間見ることができる。



盛況ぶりを物語る満席の講演会場

### 感性A Iの権威 国立電通大 坂本教授による講演

そのAITが今回の講演者として招聘したのが、国立電気通信大学教授の坂本真樹氏だ。坂本氏は感性AI研究の権威であり、その研究はオノマトペ（「ふわふわ」や「きらきら」等、擬声語や擬態語）を切り口にしたAIで有名だ。また国立大の教授でありながらテレビにも多数出演している著名人である。それを物語ったのが、定員を大幅に超える聴講者の数であり、坂本氏の講演の盛況ぶりは会場の様子を撮影した講演会場の写真からも感じてもらえるだろう。

お客様満足度  
第1位

2017年度  
調査参加IBMビジネス  
パートナー中

年間  
プロジェクト  
800

2016年度実績  
圧倒的なエンジニア  
動員力

お取引先  
1500社

創業25年の  
実績、経験



銀行



証券



保険



流通



製造



医療



官公庁



通信メディア



文教

AIT講演資料より抜粋

## アナリティクス/IBM Watson/アジャイル 各専門分野のスペシャリストを拡充

冒頭で挨拶にたった酒井修氏からは「お客様のデジタルトランスフォーメーションをご支援するべく、IBMビジネス・パートナーの中でも早くから、クラウド・データ・アナリティクスの分野にチャレンジしてまいりました。お陰様で2015年と2017年にクラウドの分野でIBMグローバル表彰のWinnerをいただく事ができました。この賞に恥じぬよう、当社ではお客様とともにプロジェクトを推進できる環境を整えるべく、アナリティクス・IBM Watson・アジャイル開発の各分野において、専門資格の取得を積極的に推進しております。」と心強いコメントがあった。



AIT講演資料より抜粋

その後登壇した坂本氏の講演では、第3次AIブームの今、改めてこれまでのAIの歴史を振り返りながら、今後AIの進化がいかに社会や企業活動に変化をもたらすのか未来予想を交えてわかりやすく解説された。講演内容の詳細については、著書「人工知能が ほぼほぼ わかる本」(オーム社)、「人工知能と社会 2025年の未来予想」(オーム社)に委ねるとして、坂本氏が大学教授も続けながら起業したという話にも注目が集まった。社名はズバリ「感性AI株式会社」某電鉄会社との共同出資により設立された法人の未来を語る坂本氏は、AIへのあくなきチャレンジが感じられた。



右・坂本真樹氏 IBM Watson チャットボット体験コーナーにて



SPSSミニハンズオン体験コーナーの様子

## AI・データ・クラウド・インフラ支援で お客様の価値創造を支援

講演の最後に再登壇した酒井氏より、IBM Think Japan 2018展示会場の紹介がされた。AIT展示ブースでは、「SPSSアナリティクス」と「IBM Watsonチャットボット」が2つ同時に体験できるミニハンズオンルームが併設された斬新なレイアウト。これに、Hyperledgerを用いたブロックチェーン環境構築やKubernetesコンテナによるクラウド基盤構築を中心にIBM Cloud IaaS/IBM Cloud Private/IBM Blockchain Platform/VMware on IBM Cloud/運用・監視サービス等、IBMクラウドプラットフォームを広範囲にカバーする様々な支援サービスを紹介する特設ブースもあり、AITの先進ソリューションを知ることができるものと講演聴講者の期待値の高まりを感じた。



AIT体験型展示ブースの外観

坂本氏の講演、体験型展示ブースに加え、ソリューションシアターにて、お客様と未開価値を共創するAIT(当日、同社ホームページにて会社紹介動画公開)と題して、お客様のデジタルトランスフォーメーションと一緒に支援していこうとするAITの力強い方針説明がなされた。

<IBM編集後記より>